

ちょうふの自然だより

51号

ちょうふ環境市民会議 <http://chofu-kankyo-shimin.org> 発行部数：1000部

2019.10

柏野小東にあった、かつて田んぼだった場所が土地開発公社の買い上げとなり、次年度末頃にはなんとか調布市の土地となりそうです。

この辺りは「深大寺・佐須地域環境資源 保全活用基本計画」という計画区域になっている所ですので、今後も里山の景観と共に地域資源（農地など）を活かした使われ方をしていく場所です。現在暫定管理をしているのは、ちょうふ環境市民会議ですが、農業経験

者というほどの人もいない状態で、試行錯誤の管理作業中！土の持つ魅力でしょうか、自分で食物を生産する楽しさでしょうか、何故か猛暑の中の草刈りも辛くない。

これからは秋野菜の季節。参加者で「サトイモやサツマイモの元氣のないのはなぜだろう。」などと話をしながら暮れの収穫祭を目指しています。興味のある方は是非ちょうふ環境市民会議までお問い合わせ下さい。



畑始めました！

畑

地の一角には在来種を育ててハチなどの昆虫を呼ぼう、というコーナーがあり、夏の間にホタルブクロなどちよつと懐かしい可憐な花が次々咲きチョウやハチが訪れました。そしてコーナー以外にも元々あったヤブカンゾウやツルボといった素敵な野草も満開でした。

今年度はジャガイモ（男爵）の収穫（7/24）

も終わり、イモ掘りイベント

を行って茹でたてジャガイモを食べることができました。参加した20人ほどにお土産を渡しても余るほどの収穫にスタッフもホッと一息。

その後は猛暑の中で日々草刈につぐ草刈り、近隣の畑には全く雑草が見当たらないような場所もあるのにどうしてこうなるの？ 休憩用に日除けタープを張りしました。



ホタルブクロ



ウツボグサ



オカトラノオ



ツルボ



サツマイモのツル返し



イモ掘りイベント開始！



こんなにたくさんとれた



草刈り休憩用タープ



北

北海道から南西諸島、朝鮮半島、中国、ウスリー地方と、広い範囲に分布が見られ、自生場所も海岸崖から河川の土手、田畑の畦など広範囲に普通に見られ、地中に2〜3cmの鱗茎を持っている。四国、九州の海岸の崖地には葉の幅の広い(4〜6cm)変種オニツルボが自生する。

ツルボは面白い特徴があり、春に芽が出たときは5、6枚の葉を出す。夏には枯れてしまいい、初秋の頃に再び葉を出す。このときは1、2枚の長い葉が出て花を咲かせる。

この生活史は、春の田植えが行われる前、畦道の草刈り後に葉を展開し、夏草が茂る頃には休眠し、盆の頃になって再び草刈が行われた後に花を咲かせ、葉を付ける。まるで人がする行為を見透かしているような生活史だ。多摩川の土手にもたくさんツルボが自生しているが、花の

花の履歴書

55

戸部英貞(絵・文)

ツルボ(蔓穂) ユリ科
別名ニスルボ・サンダイガサ



Scilla scilloides

咲くとき以外は生い茂った草むらの中で気付かないが、毎年行われる夏の花火大会の前に草刈りが行われ、花火大会も終わった初秋の頃に一面に花を咲かせている。

中国の明時代の書物『救荒本草』にはヒガンバナやツルボなど400種に及ぶ植物が紹介されている。

が、ツルボやヒガンバナは救荒植物として中国から渡来した史前帰化植物と考えられている。

敗戦後の食糧難の時代によく食べられたという報告があるが、一説には有毒成分が含まれるので、すりおろして水にさらして澱粉を取り出す方法や、よく煮れば大丈夫と言われるが試したことがないので体験を聞いてみたい。

別名にあるサンダイガサは公卿が宮中に参内するときに従者が差しかけた傘をたたんだ姿に似ていることらしい。

第6回 安全講習会

～ボランティアのための 緑地の管理と安全作業～

市内の樹林保全ボランティア5団体の活動の場を昨年度までに一巡。二巡目初回は西調布の凸凹森での開催となりました。今年度は暑さや夏の害虫対策を意識して、あえて8月に設定。猛暑日が続いた中旬までに比べればマシでも、この日の最高気温は32度。炎暑下の安全対策を、身をもって学ぶ場になりました。

午前中、松井一郎講師による西部公民館での講義では、マダニへの対処が詳しく説明されました。暑くても長袖・長ズボン着用はもちろん、襟仕舞い・袖仕舞い・裾仕舞いをしっかり。作業終了時には、体にマダニが付着していないか、ペアになって確認し合うとよい。万一、咬まれた場合は、無理に除去しようとすると、マダニの一部が残ってしま



鎌の研ぎ方



下草刈の実習は、夏中手つかずだった草原で

うことがあるので、医療機関に行くか、専用のピンセットを使うこと、等々。

木陰でお弁当を食べた後の屋外実習では、鎌の使い方の指導を受けながら2班に分かれて下草刈り。その後、細めの倒木を分解しながら、ノコギリの安全な使い方も。昨年に比べてフィールド実習は短めでしたが、それでも汗

だくに。休憩時間にいただいた冷たい梅ジュース(凸凹森の会特製)の美味しかったこと!

きびしい条件下で、充実した安全講習を無事に



反省会

実施していただいた松井講師・緑と公園課職員のお三方、フィールドを提供してくださった凸凹森の会の皆さんに感謝します。

反復して受講することの意味を指摘する声がある半面、近年、受講者数が低迷していることへの対策や、電動草刈機・鋸の安全な使用法講座が必要ではないかといった指摘など、来年度に向けて課題も見えてきました。(大村)



入間・樹林の会

■7月21日(土)「晴れ」参加10名
植生調査を全員で行った。活動20周年記念事業の三宅島観覧会から参加したKさん、エゴノキの虫こぶを「エゴネコ」アシ」と教えてもらい新たなつながりが広がった。プチ違いはアマチャズルとヤブガラシ、ヤマモとヘクソカズラを確認。N.T.Tの斜面地にヤマユリの花が咲いていた。

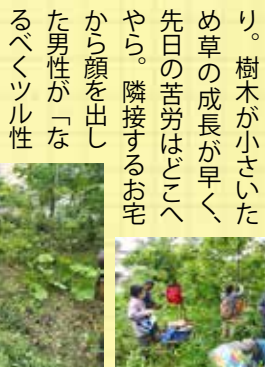
■8月18日(土)「晴れ」参加11名
暑かったが、竹切りとツバキの広場の散らばっていた落枝の山をシラカシ処理の山と一体化したのですっきりした。注意をしていたが蜂にさされた人がいるので安全な作業を再確認した。クサギ・ヤブミヨウガ・キツネノカミソリ・ヤブランの花。玉虫の写真がとれなかったが存在がうれしい。



植生調査風景

カニ山の会

■7月13日(土)「晴れ」参加9名
東樹林の東の草刈り。樹木が小さいため草の成長が早く、先日の苦労はどこへやら。隣接するお宅から顔を出した男性が「なるべくツル性の植物を刈って下さい」と声をかけてきた。確かにクズやヤブガラシの勢いがすごい。



植生調査風景

若葉緑地の会

■7月14日(日)雨天で活動を中止
■8月11日(日)「晴れ」参加7名
12時に32度を超えた真夏日。緑地入口脇の花壇の草刈りなど、道路に面した外周部分を整え、早めに作業を終える。クサギの花が満開に。よく吸蜜に来るアゲハチョウ類の姿が見えない。蝶も暑さで休んでいる？



クサギの花

■9月14日(土)「雨時々曇り」参加9名
台風15号の影響は殆どなかった。民家横周辺と三角地の下草刈り、去年の台風で倒木したシラカシの玉切りはようやく市で処理してもらったので明るくなった。作業は竹切り班が8月の残りの伐採と数化していたクズを取り除いたのですっきりした。雑木林広場の通路下側のアズマネザサ刈りも行い、ヤブランの花がめだつようになった。(安部)



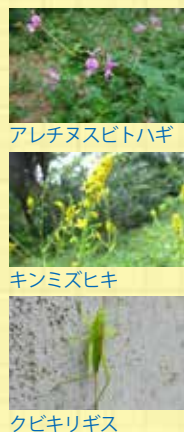
空洞の去年の倒木



クズの花



ガの幼虫



アレチヌスビトハギ

キンミズヒキ

クビキリギス

■9月14日(土)「曇り」参加9名
台風による東樹林上段の落枝を片づけた。こんなところにサクラあつたけ？という丸坊主のサクラはトリアージ(重症度による治療順位) 最高段階だが人間とは逆に伐採となった。昨年の台風より被害が少なかったのは風当たりの運が良かったのか、それとも昨年、主な大枝が折れてしまったせい？ その後は東樹林東ではササやクズと混じっていた残りのフキも刈り取り。3mほどになったセリダンも残念だが伐採。(鍛冶)

■9月8日(日)「曇り」参加5名
台風15号が接近中で蒸し暑く、11時には30度超に。無理せず、休みを取りながら作業。夏の間に繁茂した、北側と東側の民家境界付近の低木や草を集中的に刈った。翌朝にかけて強風。昨年10月の台風ほど大きな被害はなかったが、シラカシやコナラの未熟なドングリが大量に落下した。(大村)



■9月9日(月)「曇り」参加1名
臨時作業。未明に通過した台風15号により、第1緑地南側に開発された住宅地や六別坂に大量の小枝や落葉が堆積。住宅地の皆さんと一緒に片付け。落葉は緑地に戻した。第1緑地で竹が数本倒れ、第2緑地では太枝が通路をふさいだ。(NOK)



台風で落葉が降り積もった六別坂



第1緑地土留杭打ち

第1緑地林床

■9月1日(日)「晴れ」参加5名
第1緑地では、倒木を利用した杭を崖際に打ち込み、ハランとともに土留めとする。朝から残暑厳しく、用意した杭を少し残して終了。裸地化した林床に、第3緑地から移植したシバ類などが根つき、少しずつ緑が回復。第2緑地では、茂った樹木の伐採。

若葉の森3・1会

■7月8日(月)「曇り」参加2名
定例日が雨天。中止で翌日作業。調布市の依頼により、第2緑地北側住宅地に越境するアカメガシワなどの枝を伐り、周辺を除草。



越境木伐採作業

凸凹森の会は雨天のため活動はありませんでした。

凸凹森の会



ウが おい せ くん

調布

2019

歩いて、
食べて、
森で遊ぼう!

12月1日

●開催時間: 午前9時～午後2時

※雨天決行

●受付時間: 午前8時30分～
午前10時

●集合場所: 仙川駅前公園
(クィーンズ伊勢丹向かい)

●定員: 100人(申込順)

●コース: ①まんきつコース: 深大寺自然広場
(カニ山)がゴールの約8km
②こもれびコース: 入間町・若葉町の
緑地を経て実篤公園までの約3km

●詳しくは ちょうふ環境市民会議 検索

主催: 調布市
企画・運営: ちょうふ環境市民会議



第3回 雑木林ボランティア講座 ●9月7日(土)

「雑木林の生態系(生き物・昆虫編)」

午前中の座学のあと、石川先生とカニ山を散策。出会った昆虫たちの説明を受ける。

オオクロアナバチがカマキリを巣に運び込む様子には驚きの声! 麻酔をかけて動かなくなったカマキリを穴へ入れ、幼虫はその生きたカマキリを食べ、食べ終わる頃にはカマキリが絶命するという説明にも2度ビックリ。その他カタツムリ、ジョロウグモ、アカスジキンカメムシ、カマキリ、カナヘビなどの生き物も観察。

観察の合間には「雑木林の保全をしていくときは、これが正解という決まったやり方は無いので、そこを利用し、管理していく人達がどんな雑木林にしていくかを話し合うことが大切。『こういう雑木林にするにはどうしたらいいですか』と聞かれればアドバイスできますが、『どんな雑木林にすればいいですか』と聞かれても簡単には答えられない」というお話が心に残る。



オオクロアナバチ



昆虫観察の様子

雑木林のキノコ観察 環境モニター ●9月28日(土)

環境モニターの活動で開催されたキノコ講座に参加させていただいた。今回は都立農業高等学校神代農場での開催だったので、日頃、部活で農場内の植生などを調べている高校生部員10人ほどといっしょに観察学習ができた。

まず室内で東京農大のドクターにキノコの分類の仕方などざっと講習を受け、その後農場の雑木林の中に出ているキノコを各人で採取。小さなバケツに入りきらないような大きなサルノコシカケを採取した方や、真っ白なメレンゲを思わせる可愛いキノコ、ちょっといびつな丸形で全くキノコとは思えない形の物… 次々に驚きのキノコが机に並べられた。

そこで先生が種名を教えて下さると思ったが、さにあらず。何冊もの図鑑を並べて「さきほど説明した共生菌か腐生菌かなどを考えながら自分で発生場所・生活タイプ・近くの樹木・傘の裏の形状などを記入しながら調べてください」とのこと。図鑑のどこから見たらいいかも分かんずキノコ博士になる道は遥か彼方。(NK)

※キノコの名前は参加者が同定した物ですので、絶対とは言えません。



雑木林保全活動のスケジュール

入間・樹林の会

毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

●10月20日(日) 9:30～13:30

植生調査、保全活動

●11月17日(日) 9:30～12:30 保全活動

●12月15日(日) 9:30～12:30 保全活動

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。参加希望者は野草園横に直接集合。

●10月12日(土) 10:00～15:00

●11月9日(土) 10:00～15:00

●12月14日(土) 10:00～15:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●10月13日(日) 9:30～12:00

●11月10日(日) 9:30～12:00

●12月8日(日) 9:30～12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●10月6日(日) 9:30～12:00

●11月3日(日) 9:30～12:00

●12月1日(日) 9:30～12:00

凸凹森の会

原則毎月第4日曜ですが、今年は大型連休を避けています。

●10月27日(日) 9:30～12:00

●11月24日(日) 9:30～12:00 リース作り

※12月の活動はありません。



※上の5団体の保全活動問合せは、調布市役所「緑と公園課」Tel. 042-481-7083 へ

◆「ちょうふの自然だより」は、カンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。

調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

◆本誌は、地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす2・3F、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、てらのサウルス(国領)、えねこや、みさと屋(布田)、おぎもと内科クリニックなどに置いています。

本誌の「置き場所&応援カンパ」募集中です! ◆会員募集! 年会費 ●会員: 1000円/ ●サポーター会員: 500円 郵便振替(00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議)

発行: ちょうふ環境市民会議 連絡先: info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問い合わせには当方の返信が届かない場合があります。

この「ちょうふの自然だより」は、ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。http://chofu-kankyo-shimin.org